

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	4271300404		
法人名	有限会社 よしおか		
事業所名	グループホーム あじさいの家		
所在地	〒854-1105 長崎県諫早市飯盛町後田1643-1 (電話) 0957-48-1972		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(H21年 2月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成	15年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤	4人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 ~ 15,500 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月 2日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛野記念病院・西諫早病院・ひさゆき歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や畑に囲まれ近くには漁港があり、静かで穏やかな環境の中、地域の方が気軽に立ち寄りやすいホームである。ホーム名は、代表者の好きなあじさいの花にちなんで名付けられた。地域の方や家族も季節の花々や野菜を持ってこられている。ホーム内は清潔感にあふれ、掃除が随所に行き届いている。職員も心優しくチーム力が結束しており、入居者一人ひとりの人格を尊重し、決して否定することなく、入居者と家族の関係を大切に、さらに地域とのつながりを大切に、日々努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題として「市町村との連携」があげられていたが、機会あるごとに市や支所の担当者との行き来があり、書類や制度上の問題など相談もしやすく、協働関係が構築できている。敬老の日で市からお祝いの訪問があった際は、市の担当者から入居者に声をかけてもらい、和やかな時間を共有することができている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の用紙を職員全員に配布し、項目についてわからないことや疑問点などミーティング時に職員全員で話し合っている。およそ1ヶ月を費やし、自己評価をまとめ、評価の意義について検討されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在のところ年に1~2回の開催が実状である。会議では、ホームの年間行事や現状についての報告、防災避難訓練や介護保険、権利擁護に関する制度についての説明のほか、地域交流についてなど活発な意見交換が行われている。今後の運営推進会議の取り組みとしていろいろなアイデアがあり、検討を始めている。来年度は、会議を年間予定に組み入れ、会議参加メンバーにあらかじめお知らせし、メンバーの諸事情を考慮しながら実施していきたいとしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームイベントへの参加を家族に呼びかけると、ほとんどの方が都合をつけて集まれる。この機会に家族会を開き、意見や要望などを聴くようにしている。また、個別にも介護日誌等を見てもらいながら現状を報告し、意見など聴いている。家族との関わりも密で、何よりも入居者と家族の関係を大切にしている。苦情箱を設置しているが、投函されることはない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者をはじめ、管理者や職員は、ホーム設立前から地域の中で介護の仕事に携わりながら相談役として貢献されており、現在もその役どころは変わらず、地域の方からの信頼が厚い。ホームイベントの際には、地域の方にも声をかけ参加してもらい、近くの福祉施設とイベント等での交流を図っている。また、代表者は地元の方で自治会に加わっており、老人会に入会している入居者もおられ、地域の活動にも参加している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのつながりを大切に、入居者と職員で皆仲良く過ごしたいという思いを込めて、ホーム独自の理念『ゆとりある心で自分らしく皆仲良く過ごしましょう』をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昨年度の外部評価で、理念の中に「地域」の文言を入れたほうがより分かりやすいのではないかと指摘を受け、職員で話し合い再考されている。しかし、現在の理念に上回るほどの納得のいく表現に行きあたらず、現在の理念が揺るぎないものとして定着している。玄関や事務所への掲示のほか、パンフレットや便りにも掲載し、日々理念に立ち返りながら実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者をはじめ、管理者や職員は、ホーム設立前から地域の中で介護の仕事に携わりながら相談役として貢献されており、現在もその役どころは変わらず、地域の方からの信頼が厚い。ホームのイベントの際には、地域の方にも声をかけ参加してもらい、近くの福祉施設ともイベント等での交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の用紙を職員全員に配布し、項目についてわからないことや疑問点などミーティング時に職員全員で話し合っている。およそ1ヶ月を費やし、自己評価をまとめ、評価の意義について検討されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ年に1~2回の開催が実状である。会議では、ホームの年間行事や現状についての報告、防災避難訓練や介護保険、権利擁護に関する制度についての説明のほか、地域交流についてなど活発な意見交換が行われている。		今後の運営推進会議の取り組みとしていろいろなアイデアがあり、検討を始めている。来年度は、会議を年間予定に組み入れ、会議参加メンバーにあらかじめお知らせし、メンバーの諸事情を考慮しながら実施していきたいとしている。今後の取り組みに期待したい。

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会あるごとに市や支所の担当者との行き来があり、書類や制度上の問題など相談しやすく、協働関係にある。昨年は、商工会議所婦人部の方から縫った雑巾の贈呈があり、とても重宝されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料を直接窓口で支払われる家族がほとんどであるため、定期的に個別に現状報告ができています。また、訪問当日も家族からの電話がかかっており、状況に応じて随時電話で報告や情報交換が行われています。そのほか「あじさい便り」を発行され、ホームでの様子の写真を掲載し報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームイベントへの参加を家族に呼びかけると、ほとんどの方が都合をつけて(中には野菜などのお土産持参で)集まれる。この機会に家族会を開き、意見や要望などを聴くようにしている。家族との関わりも密で、何よりも入居者と家族の関係を大切にしている。苦情箱を設置しているが、投函されることはない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため異動はなく、馴染みの職員による支援を継続している。新規採用の際は、高い志を活かすための資格取得についての提案など十分に話し合うようにしており、離職を最小限度に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパーバイザーである上司が、日々の支援の中で実地指導を行っているほか、外部研修への参加や、資格取得についてもホーム全体で協力している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加入しており、職員同士の交流もあり、研修会にも参加している。県の連絡協議会の研修会が今後開催される予定で、早速参加を希望している。そのほか他ホームの見学についても検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族からの相談には解決や安心につながるよう十分に話し合いを行っている。本人とは横に並んで世間話や昔話をしながら、少しの時間でもコミュニケーションを図る時間を多くして馴染んでもらえるように心がけ、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の昔話や苦勞された話の中に、人間関係や人としての尊厳など、学ぶべきことがたくさん詰まっております。日々人生勉強をさせてもらっている。職員は時に嫁であったり娘であったり孫であったり、年齢に応じた役回りもあり、共に支えあって暮らしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>居室担当制を定め、センター方式を活用し、課題分析を行っている。本人が考えていることを書き出すためには、日々の支援の中で常に考えながらケアすることが求められ、職員の観察力が向上している。入居者が言葉で表現することのみならず、何気ない表情や動作からもくみ取り、介護計画にも反映されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いや意向を基に、家族の意見や要望も踏まえ、毎月のミーティングで職員全員の意見やアイデアを出し合って、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の項目の表記に特徴があり、例えば評価の欄に「そしてどうなりましたか」と記載され、訴えかけられている。3ヶ月毎に評価を行い、新たな計画を作成している。初期計画については1ヶ月後には見直しを行い、状態や要望等に変化が生じた際には随時現状に即した計画変更を行っている。</p>		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族のみならず地域の方の介護の悩みや困り事など傾聴し、相談にのったり、他のサービスにつなげるなど柔軟な支援を行っている。また、道に迷われた高齢者や、独居でボヤを起こした高齢者を一時的にホームで預けられたことなど過去にあり、ホームの多機能性を大いに発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受療継続を基本とし、適切な医療が受けられるよう支援している。定期受診と2週間に1回の薬を取りに行くことはホームで対応しており、現在は往診はない。初回受診や重症疾病等については家族に同伴してもらうようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の協力とかかりつけ医の往診、24時間連携体制が取れば可能であるかもしれないが、現段階では看取りの支援は対象としていない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけ一つにしても、「もっと他に言い方があったのではないか」と自己を省み、職員同士でも注意し合って、入居者の尊厳やプライバシーを損ねることがないように努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「入居者への愛情は100パーセントです」と職員が言われるほどに、一人ひとりのペースを尊重し、心優しく対応されている。		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	釣ってきた魚や移動販売で購入した活きた魚、代表者の畑等で収穫した野菜をふんだんにメニューに採り入れている。時には自家製のごま豆腐や漬物、薄焼き卵を衣にお雛様にみたてた寿司などイベントに合わせた食事が、目や心を楽しませてくれる。訪問当日も、職員と一緒に賑やかな食卓であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴曜日は月、水、金の週3回、本人の気分や要望に沿い、タイミング等も考慮し支援している。入居当初、拒否傾向にあった方が今では一番風呂を好むようになったり、洗髪をしたがらなかった方が今では皆が昼食後ゆっくりしている時間帯にゆったりと入浴を楽しめるようになるなど、支援の工夫で徐々に変化が見られており、温かく見守っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の皮むき等の調理の下ごしらえやお盆拭き、洗濯物たたみなどの役割を入居者自ら担っている。広告紙の箱作りは、それぞれに役割を分担して共同作業で完成させている。また、三味線や日舞、ハーモニカなど職員が芸達者で、入居者と共に歌ったり踊ったりして日々楽しみを共有している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くを散歩したり、寒い時季はドライブで車窓からの風景を楽しんでいる。季節に応じてイベント見物に出かけたり、時にはレストランで外食したりと外出の機会は多い。昨年の敬老会では、家族も一緒になって温泉に出かけ、楽しまれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。外出傾向にある方はおられず、センサーチャイムも現在は使用していない。入居者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定し、入居者と共に避難訓練を実施している。災害時の避難経路の確認や、ライフラインの確保も日頃から行っている。また、地区の寄り合いの際など機会あるごとに、地域への協力要請を行っている。さらに運営推進会議で、ホームの外に非常ベルを設置してみてもどうかとの意見があり、検討を始めている。		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な野菜や魚を使い、調理に長けた専属の職員を配置し、栄養のバランスにも配慮している。3ヶ月に1回血液検査をしており、糖尿病など制限のある場合は医師と相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室には大きな書の掛け軸や季節がらひな人形が飾られ、ゆったりとした和の趣が感じられた。リビングは大きな窓から穏やかな光が射し、床暖房が整備され、冬の時季でもぽかぽかと暖かく、昼食後入居者はゆっくりとソファでくつろがれていた。職員手作りのタペストリーや浴室入口の暖簾、入居者や職員の絵や布で作った作品、墨絵などで装飾され、あじさいの花の造花や季節の花々もあり、ぬくもりのある空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁いっぱい写真が飾られていたり、仏壇や何十年も使っている鏡台や裁縫箱、桐タンスなど持ち込まれている品々は、様々である。中にはきれいに整理整頓された居室もあり、押し入れにカーテンを設えるなど、個々に合わせて工夫されている。また、洋室と和室があるが、洋室でも必要に応じ畳を敷き入れるなど、居心地の良さへの配慮が行き届いている。		